

保育士の経験をいかし、自然と子どもをつなぎたいと活動する
「地下水の守り人」河村友子さんをご紹介します。

赤ちゃんから小学生の親子での外遊びや、オリジナル劇を通じて、子どもたちに伝えたいことは・・・？



保育士でつくるグループ「愉快なばあば」

代表 かわむら ともこ 河村 友子さん



Q「愉快なばあば」は、どんな活動をされているのですか？

メンバーは、みんな地元の保育園を退職した保育士です。身近な公園や森の中での草花遊びや、自然のものを使っての外遊びに探検ごっこ。そして、時にはオリジナル劇を演じるなど、自然と楽しく触れ合う子育てをお手伝いしています。

3年前に2人でスタートし、気が付けばイベントをするごとにメンバーが増え、今では6人になりました。全員65歳以上で、孫がいるその名も「ばあば」世代です。それでも、「若い世代に発信するんだったら、SNSもせんなんよ」と、周りにお尻をたたかれインスタグラムもやっています。



Q 活動を始めたきっかけは？

退職して10年になります。ずっと「自然と子どもをつなぐ」何かをやりたいと思っていました。「ナチュラリスト」や、4年前に「地下水の守り人」の養成講座を受講したのも、この思いを形にするために役立つと思ったからです。

現役時代、自然の中で遊ぶ子どもたちが、驚きや発見に心踊らせ、目を輝かせて遊ぶ姿や、次々と想像の世界を広げていく姿を目の当たりにしてきました。そんな自然の持つ魅力を私なりにもう一度学び直し、自然と子どもたちをつなぐほんの一筋にでもなればと思い始めました。

カツラの葉っぱに、色水をぼたり。
コロコロ…生き物のように転がる！

Q「ばあば」のモットーは…？

「愉快なばあば」のモットーは、まずは、ばあばたち自身が、「愉快に生きる！」。楽しもうということです。けれども、自分たちだけが愉快と言うわけじゃないんです。

自然は、親子を丸ごと包み込んでくれます。身も心もリラックスして、自然の中で親子が五感をはたらかせて楽しんでくれたら、それが何よりです。子どもたちが感じる「わくわく」「ドキドキ」が、自然を楽しむ第一歩なのかな。

地域の森の中を駆けまわった経験が、大人になった時にふと、ふるさとを思う気持ちに、そして、環境を考えて行動する一歩につながったら最高ですね。

自然に共感して心が動く「愉快」が、親と子と、ばあばの三者で循環していく。そんな『愉快の守り人』になって地域の子育てのお手伝いできれば幸いです。



自然の枝分かれを利用した、Y字パチンコ。

色々な木の実を飛ばして遊ぼう！

—森の探検ごっこの遊びより—

オリジナル劇「あまつぶあめたろう」

「美味しい地下水」について幼児にも分かりやすく伝えたいと、作った劇。

水道の蛇口からポタンと落ちた水。「この水はどこから来るの？」。森に落ちたあめたろうが葉っぱをすべり、地面に潜り、地下水の旅へ。

地中でミミズやモグラ、たくさんの生き物と出会い、石ころ横丁で迷子になりながらも、どんどん美味しい水に変身していきます。…。

旅の終わりに、子どもが感じたことは—？



2019年 魚津埋没林博物館にて上演